

## IRサイト用 主な質疑応答

Q: 2007年3月期上期の営業損益が訂正されたことに伴い、年間の予想はどうなりますか。セグメント別にみるとどうですか。

A: 上期の訂正金額は、下期の増減で吸収して、年間では影響ないと考えています。セグメント別にみても、従来予想を変えていません。もちろん、さまざまな変化はあると思いますが、従来予想をターゲットとして事業遂行をしていきます。

Q: セグメント別の営業損益は、どのような要因で訂正されたのでしょうか。

A: 配布資料「セグメント別の状況」([http://www.nec.co.jp/ir/ja/pdf/061222\\_3\\_ja.pdf](http://www.nec.co.jp/ir/ja/pdf/061222_3_ja.pdf))をご覧ください。上期の訂正後の営業利益は、訂正前と比べて14億円の増加となっていますが、これは売上計上時期の一部訂正によりIT/NWソリューション事業で24億円減少したこと、また中国の構造改革の資産評価に関わる費用が営業費用から特別損益に組み替えられたことによりモバイルターミナル事業で34億円増加したこと、そして未実現損益の消去のセグメント間配賦に係る訂正(セグメントごとに影響あるも全社計では変化なし)によるものです。

Q: 米国預託証券(ADR)のNASDAQでの上場継続に関するヒアリングの結果は、どうなりましたか。

A: 現時点(2006年12月22日)では、まだ通知を受け取っておりません。通知時期についても現時点(2006年12月22日)では未定です。

Q: モバイルターミナル事業の構造改革費用についての訂正により同事業の年間の営業損益予想はどうなりますか。また今年度100億円弱としていた同事業の構造改革費用はどうなりますか。

A: 中国の構造改革の際の資産評価に係る費用が営業費用から特別損失に組み替えられた分、上期のモバイルターミナル事業の営業損益は、訂正前と比べ改善しました。今年度の同事業の営業損益予想については、現時点ではこれまでの予想(年間約500億円の赤字)を変えておりません。中国の構造改革費用は、これまで今年度100億円弱を見込んでおり、上期偏重と申し上げていましたが、今回訂正後は上期と下期でおよそ半々のイメージです。

Q: 訂正後 決算短信21ページに「重要な後発事象」について書かれていますが、これが業績に与える影響はどうですか。

A: 現時点ではこれらを見積ることは難しいため、業績に与える影響を申し上げることは控えたいと思います。

以上